

## HopStepJump

<http://toyono-jinjikyoo.com/>

③

## 人権について考える①

— 学級づくりと自尊感情 —

## ☆人権教育のすすめ あーよかったな あなたがいて ～「優しさ」という温かい貯金～☆

第2回初任者研修・新規採用者研修は、西宮市で教員・指導主事をされ、現在「元気塾プラス」代表の仲島正教先生に来ていただきました。講義では子どもや保護者の心に寄り添う数々のエピソードと共に、仲島先生のこれまでの実践を人権教育と結びつけ話してくださいました。

教師にとっての人権とは「人と人とのつながり」だと思いました。ただ、人とつながるといのは自然にできることではなく、自らつながりに行かないといけないと分かりました。

自分が子ども一人ひとりともっと向き合い、「今日行く」を続けなければと思いました。自分にとって目の前に40人の子どもがいるからと言って、40対1ではなく、1対1で向き合いたと思いました。

うまい授業をするだけが子どもとの信頼関係を築く方法ではないと思いました。子どもと一緒にの立場になって、共にいろいろなことを経験し乗り越えていくこと。今の自分にはそれが一番大切なのではないかなと思いました。また、見えないものを想像できる力をこれからの教員生活で身につけるために、いろいろな経験を子どもたちと共にしていきます。さらに、子どもたちの心の中に優しさの貯金がたくさんできるように、わたしも子どもたちにたくさんの愛情と優しさで接していけたらと思います。そして、自分が好きという自尊感情を子どもたちの中に育て、優しさであふれるクラスをつくっていきたいです。

「交流を深めると差別(いじめ)がなくなる。」この言葉を聞いて、授業や休み時間等、子どもたちと関わる全ての時間において、子どもたち同士がつながれる環境を作っていきたいと思えるようになりました。また、子どもたちと一緒に未来を向く教師はとても素敵だと思いました。どうしても過去の出来事に目が向きがちですが、未来と一緒に見て、子どもたちが「明日もがんばろう！」と思えるような声掛けや接し方が大切だと思いました。運動会后、息子が片づけをする姿を褒めたお父さんのように、子どもたちのがんばりを認め、言葉にして伝えていける教師でありたいと思いました。

本格的に授業や家庭訪問が始まる中で、子どもたちの課題が少しずつ見えてきていると思います。仲島先生から“見えないものを想像できる力を持つことが一番大事”というお話がありました。子どもたちの言動に対して、「何してんの！あかん！」ではなく、その言動を心の叫び、サインと捉え、「どうしたん？なんかあった？」と背景にあるものを見つめようとするのが大切です。

先生になる前に、子どもたちといっぱい遊ぶ先生になりたいと思っていました。しかし、実際に授業が始まると、なかなか余裕がなくて、一緒に遊べないこともありました。今日の講義を聴いて、余裕があるから遊ぶのではない、余裕がない時ほど遊んで子どもとの距離を縮めるべきなんだと気づきました。明日は絶対子どもたちと遊びます。

自分ができていないこと、足りない部分にばかり目がいていました。そして、自分ができるところ、やれることがわからず、毎日の業務に追われていました。丸付けをしなきゃ、指導しなきゃ、クラスをまとめなきゃ・・・毎日、楽しいより辛い、しんどいがありました。今日の話を聞いて、自分ができるところはまだまだある。若いからこそできること、やってみようと思うことを知れました。先生が楽しむこと、笑うこと、優しくすること、遊ぶこと、まずはそこから始めたいなと思います。

最初、「とにかく遊ぶ。」「遊ばない若い先生はダメだ。」と聞いたとき、ドキリとしました。丸付けをする暇がなく、最近子どもの遊びの誘いを断って仕事をしていました。でも、内心、子どもとたくさん遊びたいのと思っていたので、明日からは思いっきり子どもと遊びたいと思います。毎日のように「先生、今日遊べる？」と聞いてくる子どもたちのことが愛しくてたまらなくなるような、そんな時間でした。

最後に、明日へのエネルギーとなる「壁には必ずぶつかる。そんな時こそチャレンジをしてみる。すると、扉がで、新しい自分が生まれる。」という温かいエールを届けてくださいました。“忙しさの中で見失いそうになっていた「何のために先生をめざしたのか」ということを思い出しました。”これは、ある先生の振り返りシートの一文です。講義を通して、子どもたちの自尊感情を高めるためにできることや学級づくりで大切にしたいことを学ぶだけでなく、汗びっしょりになって、熱く語る仲島先生の姿から“先生”という職業について見つめ直し、新たな気持ちをもたれた先生も多かったです。